

ひかい

第13号 令和5年3月31日発行

(公財) がんの子どもを守る会 福島支部 (光の子どもを守る会)

コロナ禍も3年目。マスク着用が個人の判断となりましたが、私達はまだまだマスクをつけないという選択肢はない気がします。それでも今年度の支部活動は福島県立医科大学附属病院のご理解をいただきながら活動を行うことができました。

また、2年ぶりにがん患者支援イベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン福島」にも参加することができました。

リレー・フォー・ライフ・ジャパン福島2022

10月2日(日)

あづま総合運動公園中央広場で
10:00から15:00まで開催された
リレー・フォー・ライフ・ジャパン福島
2022に参加してきました。



コロナ禍の影響で、中止、縮小開催となっておりますが、今年度は、1日だけでしたが、参加型のリレー・フォー・ライフに参加することができました。福島支部では今回も、支援学校の先生方にもご協力いただき、輪投げやくじ引きなど、子ども達も楽しめるブースを開きました。当日は天気も良く、皆さん汗をかきながら、フラッグを持ってリレーを行いました。県外からも参加してくれた方がいて、久しぶりに皆さんの顔がみれてほっとしました。

だんだん、コロナ禍前に戻りつつありますが、感染にはくれぐれも気を付けながら、参加をさせていただければと思います。



クリスマス会



入院中の子ども達にプレゼントを贈りました

12月2日、福島県立医科大学附属病院小児病棟に、一足早いサンタクロースがやってきました。今年もイベントはできませんでしたが、先生方にサンタクロースやトナカイに変身していただき、子ども達にプレゼントを届けました。

サンタクロースの訪問に喜ぶ子ども達や、記念写真を撮ったりと、ちょっとだけ楽しい時間もプレゼントできました。



許可を得ております



国際小児がんデーキャンペーン

2月15日は「国際小児がんデー」です。毎年、小児がんについての理解を深め、支援を呼びかけるために、本部と各支部で様々な活動を行っています。

福島支部では、3月20日（月）から3月31日（金）まで、福島県立医科大学附属病院 小児病棟ラウンジで絵画展を行いました。感染予防の観点から、絵画展だけの実施になりましたが、本部から届いた絵画以外にも、入院中のお子様の作品も展示しました。

少しでも小児がんへの理解に結びつけられればと思いました。



【特集】 守る会に関わる方からのメッセージ

「光の子とともに～パンダハウス～」

認定特定非営利活動法人パンダハウスを育てる会

相談員 森 千香子 さん



「大変な時こそ 最善の環境を」パンダハウスのスタッフは常にその言葉を大切にしています。そして気がつけば 365 日×25 年間一度も扉をしめることなく、ハウスへ訪れる病と闘う小さなゲストとその家族をお迎えすることができました。この機会にハウスの中の物語を少しお伝えさせて頂きたいと思います。入院加療中の A 君は町探検の授業でパンダハウスを訪れました。玄関を入る時恥ずかしそうに先生の後ろにすっかり隠れてご挨拶。ところが数十分後には、「ゴー」という音とともに汗だくになりながらおもちゃのバイクにまたがって駆けぬけていく A 君の姿。さくらんぼ色になったほっぺで「さよなら。またきます。」とその背中少し大きく見えました。AYA 世代の B ちゃん C ちゃんの仲良し二人組は、なんとハウスの中でおしゃれなお店を開店。彼女たちのデザインしたアクセサリやキーホルダーはたちまち大評判。商品がならば即売の大盛況ぶり。お店を開くという夢を一つ叶えるお手伝いができました。とっておしゃれな D ちゃんは待ちに待ったハウスの外泊。夜にはお部屋の天井で即席シアターを見ながら大好きなパパとママと三人で眠りにつきました。翌朝は笑顔いっぱい活動開始。虹色のくまさんやユニコーンのお友達のお世話に大忙しです。大好きな桜はもうすぐハウスで咲きますよ。

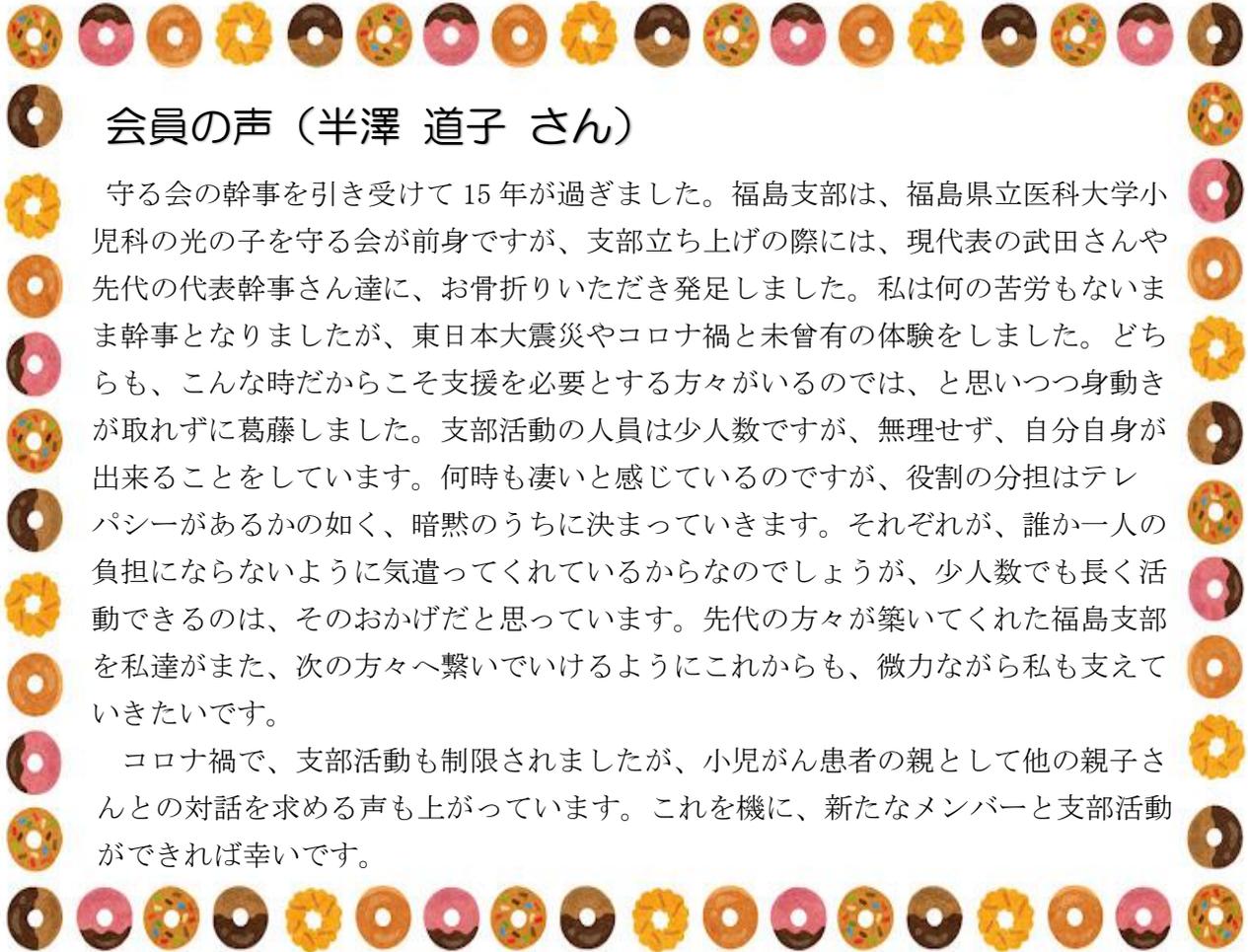
現在のパンダハウスは居室も 7 室に増室され、幅広い目的で利用できるホールも完成し、より居心地のいいハウスに変化しています。さらには思春期・若年成人で病気を持つ人たちの諸問題に対しても、サポートが途切れることのないようにとの思いから相談事業の活動も継続させていただいております。また昨年からは新しい試みとして、福島県内の多くの家族会の方々と定期的な交流も始まりました。いままでも これからも パンダハウスを育てる会は子どもと家族を、ずっと支える会。これからも「がんの子どもを守る会福島支部（光の子を守る会）」の皆さまに多機能に活用されるように活動を積み重ねていきたいと思ひます。

パンダハウスでお待ちしています。



山本理事長とシンボルのパンダ





会員の声（半澤 道子 さん）

守る会の幹事を引き受けて15年が過ぎました。福島支部は、福島県立医科大学小児科の光の子を守る会が前身ですが、支部立ち上げの際には、現代表の武田さんや先代の代表幹事さん達に、お骨折りいただき発足しました。私は何の苦労もないまま幹事となりましたが、東日本大震災やコロナ禍と未曾有の体験をしました。どちらも、こんな時だからこそ支援を必要とする方々がいるのでは、と思いつつ身動きが取れずに葛藤しました。支部活動の人員は少人数ですが、無理せず、自分自身ができることをしています。何時も凄いと感じているのですが、役割の分担はテレパシーがあるかの如く、暗黙のうちに決まっています。それぞれが、誰か一人の負担にならないように気遣ってくれているからなのでしょうが、少人数でも長く活動できるのは、そのおかげだと思っています。先代の方々が築いてくれた福島支部を私達がまた、次の方々へ繋いでいけるようにこれからも、微力ながら私も支えていきたいです。

コロナ禍で、支部活動も制限されましたが、小児がん患者の親として他の親子さんとの対話を求める声も上がっています。これを機に、新たなメンバーと支部活動ができれば幸いです。

<お知らせ>



小児がんの治療や移植治療で免疫が低下または消失してしまった方が、ワクチン接種する場合は自費になってしまいます。郡山市では県内で一番早く再接種の助成（22歳まで）を行っていましたが、この度、福島市でも再接種の助成（19歳まで）がスタートしました。県内どこに住んでいても助成が受けられる制度の構築が望まれます。

病気のことに加え、コロナ禍での生活において、不安や心配を抱えてお過ごしの方もいらっしゃるかとお察しいたします。本部ではソーシャルワーカーが常駐して相談を受け付けています。

どうぞ、ご活用ください。 **相談専用電話 (03) 5825-6312**

発行：(公財) がんの子どもを守る会 福島支部 (福島県立医大病院小児腫瘍内科内) 電話:024 (547) 1437